

成果の説明書

(氏名)	中 村 匡 克	(学部)	地域政策学部
<b>1 重要事項</b>			
<b>(1) 研究活動</b>			
・ 吉岡町から受託され、吉岡町の魅力に関する調査（報告書：「吉岡町の魅力に関する調査分析－居住と交通の実態－」）を実施した。			
・ 山森哲男氏（獨協大学）と協力し、経済学実験を実施した。			
<b>(2) 教育活動</b>			
・ 講義では、従来的一方通行型の講義スタイルから脱却することを目指し、ディスカッションを中心とした双方向型の講義スタイルへの転換を心がけた。			
・ 講義では、講義内容に関する質問・感想を受講生に書いてもらい、次回の講義において回答（リプライレターとして配布）した。			
・ 卒業・修士論文の作成指導にあたっては、演習以外の時間もつかい、データ分析の方法や論文の書き方等について指導を行った。			
<b>(3) 大学運営</b>			
・ 教養教育長となり、基礎教育委員会の委員長として「初年次ゼミ」の改革に取り組むとともに、全クラスで使用する講義ノートを作成した。			
<b>(4) 社会貢献活動</b>			
・ 吉岡町補助金等審査委員会の座長として会議に出席し、審査結果のとりまとめを行った。			
・ 群馬県大規模小売店舗立地審議会の委員として現地調査や会議に参加し、新規出店等の適正について審議を行った。			
・ ぐんま 3R 推進会議の委員として会議に出席し、学術的見地から発言した。			
<b>(5) 学会活動</b>			
・ 日本計画行政学会の理事として理事会に出席し、学会運営に携わった。また、同学会の学術賞選考委員会委員として論文の審査・選考を実施した。			
・ 日本地域政策学会の理事として理事会に出席し、学会運営に携わった。また、同学会の編集委員会の副委員長として、機関紙『日本地域政策研究』（年 2 号発行）の編集を担うとともに、学会賞選考委員として論文の審査・選考を実施した。			
・ 日本公共選択学会の学会誌（『公共選択』70 号）の編集に副委員長として携わった。			
<b>2 その他の事項</b>			
教養教育長は、教務委員会の委員も兼ねているので、これらの会議に参加し、意見を述べたり、これまでの経験にもとづき必要な情報提供をしたりした。一元化科目運営委員会でも、同様の貢献を行ってきた。			
<b>3 次年度以降の計画・抱負</b>			
公共選択の視点に重点をおきながら、地域政策の基礎理論となるような考え方の整理を進めていきたい。また、新たに取り組んだ経済学実験については、必要に応じて追加の実験を実施し、成果として取りまとめて報告したい。			
講義に関しては、ディスカッションを中心とした双方向型の講義スタイルへの転換を進めてきたが、より魅力的な講義の提供ができるようさらなるスキルアップを図りたい。なお、学生からの質問・感想をリプライレターとして返す作業は引き続き行いたい。			